



2015年12月期 第3四半期 決算説明資料

2015年 11月 10日
富士ソフト 株式会社



目次

2015年12月期第3四半期 決算

- P2. 連結業績ハイライト
- P3. 主なグループ会社売上高・営業利益
- P4. 連結セグメント別売上高
- P5. 連結損益計算書
- P6. 連結貸借対照表
- P7. 連結キャッシュ・フロー計算書
- P8. 連結S I事業の受注高・受注残高



連結業績ハイライト

売上高はシステム構築分野の好調により増収

◇売上高は、機械制御系などシステム構築分野が好調に推移し、前年同期比103.4%の116,261百万円となりました。

営業利益はシステム構築分野の好調により上期までの減益幅を縮小し微減

◇付加価値の高いシステム構築事業の売上高が3Q(7-9月)で前年同期比109.9%の21,642百万円と大きく増加したことなどにより、営業利益は上期までの減益幅を縮小し、期初からの累計で前年同期比98.3%の6,158百万円となりました。

◇経常利益は、持分法投資利益により6,654百万円となりました。

◇四半期純利益は、関係会社株式の売却による1Q(1-3月)での特別損失計上などにより、3,562百万円となりました。

(単位:百万円)

	2014年12月期 3Q累計実績	2015年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2015年12月期 3Q累計計画	計画比
売上高	112,425	116,261	+3,836	103.4%	114,400	101.6%
営業利益	6,262	6,158	△ 103	98.3%	6,450	95.5%
営業利益率	5.6%	5.3%			5.6%	
経常利益	6,816	6,654	△ 161	97.6%	6,660	99.9%
経常利益率	6.1%	5.7%			5.8%	
四半期純利益	3,764	3,562	△ 202	94.6%	3,590	99.2%
四半期純利益率	3.3%	3.1%			3.1%	



● 主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	2014年12月期 3Q累計実績	2015年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2014年12月期 3Q累計実績	2015年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比
富士ソフト	67,191	69,723	+2,531	103.8%	3,950	3,978	+28	100.7%
サイバネットシステム	11,604	11,792	+187	101.6%	488	600	+111	122.9%
ヴィンクス	20,977	21,480	+503	102.4%	1,374	1,255	△119	91.3%
サイバーコム	6,007	6,463	+456	107.6%	307	316	+9	103.1%

※富士ソフトおよびサイバネットシステムは12月決算、ヴィンクスおよびサイバーコムは3月決算です。

※ヴィンクス、サイバーコムにつきましては「2015年12月期3Q累計実績」欄に2015年1～9月の実績を記載しています。

主なグループ会社売上高・営業利益のポイント

● 富士ソフト

売上高は、機械制御系や流通業向けなどシステム構築分野が好調に推移し増収となりました。営業利益は、増収や原価率の改善により売上総利益が増加したものの、採用強化に伴う販管費増加や研究開発等の先行投資により前年並みとなりました。

● サイバネットシステム

売上高は、電子回路基板設計ソリューションにおいて、前年に取扱商品の変更を行いビジネスが立ち上げ段階である影響があったものの、海外グループ会社や国内のITソリューションサービス事業が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、商品原価率の改善や、増収により増益となりました。

● ヴィンクス

売上高は、主要顧客である大手総合小売業向けの海外を含むビジネス伸張や機器更新需要に伴う物販の増加により増収となりました。営業利益は、経営統合による業務効率化により管理コスト削減が進んだものの、物販の増加により一時的に高原価率となったことや、採用強化に伴う販管費増加等により、減益となりました。

● サイバーコム

売上高は、制御系および業務系が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、採用や技術者教育の強化、独自プロダクトの機能拡充のための費用が増加したため、微増にとどまりました。

連結セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2014年12月期		2015年12月期		前同差	前同比
	3Q累計実績	構成比	3Q累計実績	構成比		
売上高 合計	112,425	100.0%	116,261	100.0%	+3,836	103.4%
SI事業	104,815	93.2%	108,188	93.1%	+3,373	103.2%
システム構築	58,820	52.3%	63,583	54.7%	+4,762	108.1%
組込系／制御系ソフトウェア	28,276	25.2%	30,730	26.4%	+2,453	108.7%
業務系ソフトウェア	30,543	27.2%	32,852	28.3%	+2,308	107.6%
プロダクト・サービス	45,994	40.9%	44,604	38.4%	△ 1,389	97.0%
プロダクト・サービス	31,448	28.0%	31,442	27.0%	△ 5	100.0%
アウトソーシング	14,545	12.9%	13,161	11.3%	△ 1,383	90.5%
ファシリティ事業	1,603	1.4%	1,831	1.6%	+227	114.2%
その他事業	6,006	5.3%	6,241	5.4%	+234	103.9%

セグメント別売上高のポイント

●組込系／制御系ソフトウェア

自動車関連・FAなどの機械制御系、航空・宇宙分野や電力などが好調に推移したことにより、モバイルや通信制御の減少を補い、前年同期比108.7%と増収になりました。

●業務系ソフトウェア

流通分野・製造分野の好調継続に加え、金融分野が増収に転じたことなどにより、前年同期比107.6%と増収になりました。

●プロダクト・サービス

ライセンスビジネスが1Q(1-3月)で前期大型案件による反動減の影響があったものの、その後好調に推移したことなどにより、前年同期並みとなりました。

●アウトソーシング

流通業向けにおける取引の減少や、大口顧客の経営統合による解約の影響が1Q(1-3月)までであったことなどにより、前年同期比90.5%と減収になりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2014年12月期	2015年12月期	前同差	前同比	2015年12月期	
	3Q累計実績	3Q累計実績			3Q累計計画	計画比
売上高	112,425	116,261	+3,836	103.4%	114,400	101.6%
売上原価	86,557	89,330	+2,773	103.2%	87,800	101.7%
売上原価率	77.0%	76.8%	△ 0.2 ①		76.7%	
売上総利益	25,868	26,931	+1,063	104.1%	26,600	101.2%
売上総利益率	23.0%	23.2%	+ 0.2		23.3%	
販売費及び一般管理費	19,606	20,772	+1,166 ②	106.0%	20,150	103.1%
販管費率	17.4%	17.9%	+ 0.4		17.6%	
営業利益	6,262	6,158	△ 103	98.3%	6,450	95.5%
営業利益率	5.6%	5.3%	△ 0.3		5.6%	
営業外収益	591	312	△ 279	52.9%	365	85.7%
営業外費用	364	157	△ 206	43.2%	155	101.4%
持分法による投資損益	326	340	+14	104.3%	-	-
経常利益	6,816	6,654	△ 161	97.6%	6,660	99.9%
経常利益率	6.1%	5.7%	△ 0.3		5.8%	
特別利益	31	59	+28	191.7%	-	-
特別損失	161	386	+225	239.6%	-	-
税金等調整前四半期純利益	6,686	6,327	△ 358	94.6%	6,660	95.0%
法人税等合計	2,397	2,258	△ 138	94.2%	2,470	91.4%
少数株主損益(減算)	524	506	△ 17	96.6%	600	84.4%
四半期純利益	3,764	3,562	△ 202	94.6%	3,590	99.2%
四半期純利益率	3.3%	3.1%	△ 0.3		3.1%	

損益計算書のポイント

① 売上原価率 (△0.2%)

自動車やF A分野での好調による付加価値の高いシステム構築事業の増加

② 販売費及び一般管理費 (+1,166百万円)

採用増に伴う人件費・採用研修費の一時的な増加や研究開発などの先行投資による



連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	2014年12月期 期末	2015年12月期 3Q期末	前期末差
流動資産	55,094	56,054	+959
現金及び預金	15,244	13,324	△ 1,919 ①
受取手形及び売掛金	30,136	31,511	+1,375 ②
有価証券	3,010	4,000	+990
たな卸資産	1,968	2,221	+252
繰延税金資産	2,150	2,588	+437
その他	2,584	2,407	△ 176
固定資産	102,492	98,718	△ 3,774
有形固定資産	67,513	67,185	△ 328
無形固定資産	7,641	6,552	△ 1,089 ③
投資その他の資産	27,337	24,980	△ 2,356 ④
資産合計	157,587	154,773	△ 2,814
流動負債	38,039	30,196	△ 7,843
買掛金	7,493	7,668	+174
短期借入金	7,983	4,103	△ 3,879 ①
コマーシャル・ペーパー	5,000	2,000	△ 3,000 ①
未払費用・賞与引当金	5,873	7,155	+1,281
未払法人税等	2,312	1,345	△ 967 ⑤
工事損失引当金	140	99	△ 40
その他	9,236	7,824	△ 1,412 ⑤
固定負債	19,021	22,142	+3,121
長期借入金	8,230	11,493	+3,262 ①
その他	10,790	10,649	△ 141
負債合計	57,061	52,339	△ 4,721
純資産合計	100,526	102,434	+1,907
負債純資産合計	157,587	154,773	△ 2,814

貸借対照表のポイント

① 現金及び預金 (△1,919百万円)

短期借入金 (△3,879百万円)

コマーシャル・ペーパー (△3,000百万円)

長期借入金 (+3,262百万円)

借入の約定返済による増減

② 受取手形及び売掛金 (+1,375百万円)

S I 事業の増収による増加

③ 無形固定資産 (△1,089百万円)

のれんやソフトウェア資産の償却による減少

④ 投資その他の資産 (△2,356百万円)

保有株式の時価評価や関係会社株式の売却による減少

⑤ 未払法人税等 (△967百万円)

その他の流動負債 (△1,412百万円)

法人税・消費税の支払による減少



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2014年12月期 3Q累計実績	2015年12月期 3Q累計実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,325	5,095	△ 6,229
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,854	84	+3,939
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,156	△ 5,069	+3,087
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	41	
現金及び現金同等物の増減額	△ 682	152	
現金及び現金同等物の期首残高	14,342	16,135	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	135	0	
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	102	△ 61	
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,897	16,226	

キャッシュ・フローのポイント

●営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は前期に比べ決算期変更に伴う税金の支払額、及び増税に伴う消費税が4,544百万円増加した結果、5,095百万円の収入となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

自社製品（ソフトウェア）、設備投資などへの支出がありましたが、関係会社株式の売却などにより、84百万円の収入となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

主に借入金及び配当金の支払により5,069百万円を支出しました。

連結 S I 事業の受注高・受注残高

(単位:百万円)

	2015年12月期 3Q累計実績						
	期首受注残高	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	28,735	109,056	103.2%	108,188	103.2%	29,604	108.8%
システム構築	19,544	64,465	106.3%	63,583	108.1%	20,426	109.6%
組込系/制御系ソフトウェア	8,299	31,262	108.8%	30,730	108.7%	8,830	109.0%
業務系ソフトウェア	11,245	33,202	104.1%	32,852	107.6%	11,595	110.0%
プロダクト・サービス	9,191	44,591	99.0%	44,604	97.0%	9,177	107.1%
プロダクト・サービス	6,495	31,603	102.4%	31,442	100.0%	6,656	113.5%
アウトソーシング	2,695	12,988	91.5%	13,161	90.5%	2,521	93.3%

受注高・受注残高のポイント

●受注高のポイント

- システム構築分野
組込系/制御系ソフトウェアにおいて、機械制御系が好調に推移しました。業務系ソフトウェアは製造業などが好調に推移したのに加え、金融分野も減少から増加に転じました。
- プロダクト・サービス分野
コンシューマ向けロボットの受注があったものの、アウトソーシングでの一部の契約終了などにより微減となりました。

●受注残高のポイント

- システム構築分野
期首受注残高が高水準にあったこと、受注高も機械制御系が好調に推移したことなどにより、期末受注残高は前年同期比109.6%となりました。
- プロダクト・サービス分野
コンシューマ向けロボット等の新製品や長期契約の受注により、アウトソーシングの減少を補い、期末受注残高は前年同期比107.1%と増加しました。



BYOD推進企業



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。